

(仮称)野洲市立病院基本計画

精査結果【案】の要約

平成27年10月13日

野 洲 市

(余白ページ)

➤ 今回の精査結果案の要約[1.~3.]

1. 病院を整備するための費用:76億円

⇒ 86億円に

- 全敷地を用地取得費の対象としたこと (+2.5億円)
- 病床数増加により延床面積が増加したこと (+5.2億円)
- 移転可能医療機器が少なかったこと (+1.5億円)
- システム、事務費、移転費等・・・で (+0.7億円)

2. 病院事業の損益: 16年目で黒字 ⇒ 8年目で黒字 (ex: 10年目): 0.8億円の赤 ⇒ 0.5億円の黒に

《収入》
(+2.3億円 / +7%)

- 入院・外来・健診収益 (+3.2億円 / +11%)
- 繰入金収益 (▲0.8億円 / ▲21%)

《支出》
(+1.0億円 / +3%)

- 給与費 (▲0.3億円 / ▲1%)
- 薬品・材料・経費等 (▲1.3億円 / ▲12%)
- 減価償却費 (+0.8億円 / +24%)
- 繰延償却・雑損失等 (+1.8億円 / 皆増)

3. 病床数180を、現野洲病院と同数の199に再設定

- 一般急性期(100)、回復期リハ病床(+10で50に)
、地域包括C病床(+9で49)、合計180床→199床

➤ 第1回「基本計画評価委員会」(1/29)に提出した事務局素案の収支と、現基本計画の収支における_諸数値設定の解析結果

1. 第1回基本計画評価委員会(1/29) 事務局素案

(1) 概要…病院事業損益は20年目も赤字。基本計画検討過程の素案で、庁内検討の時間的制約のため原課素案のまま公開に至ったが、その後担当課の判断によりこの内容で県～総務省に報告した。

(2) 諸数値設定の解析結果

① 入院診療収益:

看護配置10:1換算後、地域包括C想定

- 野洲病院のH26実績*より、患者1日当りの単価を、一般病床で約2割、地域包括Cで約1割、小さく設定。患者数は、病床数を180床に制限したことから、約163人/日(180床×90%)で固定
- 結果的に、入院診療収入はH26の野洲病院の決算より1%少ない額で経年増なしで推移する設定。

[続き]

②外来診療収益:

- 野洲病院のH26決算の5/6換算額(土休のため)より、約7%少ない額で経年増なしで推移する設定

③医業費用:

- 薬品・材料・経費率をH23の公立病院の平均比率を用い、医業収益の34.2%と設定
- 駐車場賃借料を全職員分含む350台×月極8,000円で計上

④建設工事費:

- 外構整備費を約15万円/m²で設定
- 医療機器を全部新品で調達する設定で約12億円で計上
- 取得用地を全敷地で約8億円で設定

∴ 病院事業損益は20年目も赤字……

2. 現基本計画

(1) 概要…3/12開催の第2回評価委員会へ提示した案。

基本計画として成案化。病院事業損益は16年目から黒字。

議会委員会で更に精査すべき旨の決議が附された。

(2) 諸数値設定の解析結果

①入院診療収益：

●単価は野洲病院のH26実績*より一般病床で約1.5割小さく設定。

入院患者数は全体で約160人/日のまま増えない設定。

●結果、入院収入はH26の野洲病院の決算より7%多い額で、そのまま経年変動なしで推移する設定。

[続き]

②外来診療収益:

- 野洲病院のH26実績の5/6換算額より、約4%少ない額で経年増なしで推移すると引き続き設定。

③医業費用:

- 薬品・材料・経費率をH23の医療法人病院の平均比率に置換え、医業収益の32.6%と設定。

④建設工事費:

- 外構整備費を約5万円/m²で再設定。
- 医療機器のうち、概算で6億円を野洲病院から調達する設定とし、約7億円に再設定。

∴ 病院事業損益は15年間赤字……

➤ 精査に当たっての基本姿勢

《追加シート》

1. 最新、最大、最詳データを追求

H26野洲病院の全レセプトデータ、職員の給与支給月額データ、全医療機器リスト、備品台帳、過去5年の経費・薬剤費等の実績額、等

2. 可能な限り積算する(見積徴取する)

基本設計費用、医療機器整備費、移転費用、駐車場賃借料、等

3. 根拠のない数値・係数は使用しない

患者の経年遡増・在院日数減少等の係数、公立化によるコストの増加率、福利厚生法定率、新病院化による患者増の見込係数、診療単価、等

4. 現状又は実績に立脚する

「～年鑑」等の平均値は参考に留め、原則、野洲病院の現状・実績を基準値に

5. 目標値を設定しない

客観性を持ってフラットに精査する